《履修上の留意事項》面接授業と対面授業の併用実施

《担当者名》○西澤典子 今井智子

【概要】

言語聴覚士は、音声機能、言語機能、聴覚または嚥下機能に障害のある者についてその機能の維持向上を図るため、言語訓練その他の訓練、これに必要な検査及び助言、指導その他の援助を行う職種である。

この授業は、言語聴覚士の業務と関連する疾患の学習に留まらず、「学生生活をトラブルなく有意義に過ごすために必要なこと」、「将来、チーム医療を円滑に行うために必要なコミュニケーションについて考えること」、これらのことについてグループ学習を中心に展開していく。グループ内で自らの役割を自覚し、自ら調べ、学習する。グループ内での話し合いでは、協調性、主体性、論議をまとめる能力を身につける。調べた内容を整理し発表することにより、プレゼンテーション能力を身につける。多くの言語聴覚基盤科目や専門科目の履修のための学びの基本を作る。

【学習目標】

「一般目標」

大学生生活を有意義に送るために、他者との関わり合いを通してコミュニケーションの重要性、ルールやマナー等について理解する。学びを通して、チーム医療の一員となるための礎を築く。

「行動目標」

1. 医療人、言語聴覚士になるために、大学で学ぶカリキュラム、学生生活に必要な事項について説明できる。
2. 各回の課題を通して科学的理解力、論理的思考力、文章力、問題発見能力、問題解決能力、科学的情報収集力を身につける。
3. 各回のプレゼンテーションを通して学習した内容を主体的に説明でき、意見を述べることができる。
4. 医療に携わる者としての身だしなみ、礼節、ふるまいについて調べ、学んだことを実践する。
5. グループ学習を通して、他者との意見・価値観の同一性や相違性などに気づき共有できる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	オリエンテーション	この授業全体で何を学ぶかを理解する。 大学での学び方、講義の聞き方、ノートの取り方、大学でのカリキュラム構成、大学での過ごし方を知る。 部分的に登校、対面でのオリエンテーションとする。	西澤典子 今井智子
2 3	言語聴覚士について調べる (言語聴覚士ってどんな仕事? 言語聴覚士になるには? どんなところで働いている? etc)	遠隔で、言語聴覚士について、グループ活動・討議を行い、その成果を授業で発表する。 グループ活動を通して、情報検索の方法や発表に必要なプレゼンテーションスキルを身につける。	今井智子
4 5	言語聴覚士について調べる (言語聴覚士が扱う障害は? 指導や治療の内容は? 一緒に働く職種は? etc)	遠隔で、言語聴覚士について、グループ活動・討議を行い、その成果を授業で発表する。 グループ活動を通して、情報検索の方法や発表に必要なプレゼンテーションスキルを身につける。	今井智子
6 7	障害の疑似体験	遠隔で、言語聴覚士が扱う障害を疑似体験することにより、障害や障害を持つ方の問題を理解する。 言語聴覚士の役割についてグループで討議し、発表する。	今井智子
8 9	病院と医療について調べる (病院とはどんなところ? どんな人が働いている?)	言語聴覚士はその大多数が病院をはじめとする医療現場で働いている。遠隔でのグループ学習を通して、病院という場所の特殊性と専門職としての役割を理解する。	西澤典子
10 11	医療接遇	医療現場における臨床専門職に必要な身だしなみ、礼節、ふるまいについて学ぶ。 患者への適切な接遇と臨床場面でのコミュニケーションについて、遠隔で事例を通してグループで討議し、発表する。	西澤典子
12 13	ネットエチケットについて考える	近年、SNS (social network service) に関するトラブルが頻発している。ネットエチケットや個人情報の取り扱いに関する知識を深める。遠隔で事例を通してグループで討議し発表する。	西澤典子

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
14 }	講義のまとめ	講義全体についてのまとめレポートを提出する。	西澤典子
15			

【評価方法】

平常点（受講態度、発表態度等（10%））、各回の授業で提示された課題についての発表（90%）により成績を評価する。

【備考】

参考書：専修大学出版企画委員会 編 「改訂版知のツールボックス 新入生援助集」 専修大学出版 2009年
山田弘幸 編 「ベーシック言語聴覚療法 - 目指せプロフェッショナル - 」 医歯薬出版 2010年
友安直子 編著 「プロに学ぶ患者接遇 患者心理に基づく実践のポイント80」 医学通信社 2002年

【学習の準備】

講義終了時に次回の講義の課題を提示する。時間外のグループ学習（グループに拠りますが、週2,3回で1回80分程度）が重要となる。グループ学習には止むをえない場合を除き必ず参加し、役割分担を決め取り組むこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP1）生命の尊厳と人権の尊重を基本とした幅広い教養、豊かな人間性、高い倫理観と優れたコミュニケーション能力を身につけている。

【実務経験】

西澤典子 耳鼻咽喉科医師
今井智子 言語聴覚士

【実務経験を活かした教育内容】

医師、言語聴覚士として言語聴覚療法の臨床に従事した経験から、臨床家としての将来を俯瞰しつつ有意義に学生生活を送るための基礎知識を教授する。